

第2号様式（第3関係）

第3回豊山町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事録

1 開催日時

平成28年3月2日（水）午前9時55分から午前10時20分まで

2 開催場所

会議3・4

3 出席者

（1） 委員

高橋 真委員（愛知学泉大学現代マネジメント学部教授）

小寺洋夫委員（名古屋空港ビルディング株式会社代表取締役社長）

糟谷芳澄委員（株式会社三菱東京UFJ銀行小牧支店長）

野島伸司委員（スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社取締役技術戦略本部長）

（代理 中納久史スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社技術戦略本部技術部ソリューション営業課長）

船橋和志委員（株式会社小牧サービス代表取締役）

中山 拓委員（学校法人豊山学園 園長）

奥本哲巳委員（三菱重工労働組合名古屋航空宇宙システム製作所支部副委員長）

櫛田和裕委員（尾張中央農業協同組合豊場支店長）

小島有里委員（豊山町まちづくりサポーター）

（2） 欠席者 なし

（3） 事務局

理事 竹澤功

総務部長 安藤光男

総務課長 小川徹也

総務課企画財政・情報係長 井上武

総務課企画財政・情報係主査 牧野礼男

4 議題

人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略（最終案）について

5 会議資料

資料1 パブリックコメントの結果について

資料2 豊山町人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略（最終案）

6 議事内容

（1）委員長挨拶

この地方創生総合戦略の最終案に向けて本会を3回開催してきた。足元の問題の解決に向けて、行政として50年後、100年後に向けての大きな仕事であり、それがなければ、地方の活性化も具体化していかない。この会議でそのことを謳うことが出来たというのはひとつの成果だと思っている。本案の完成にかかる皆様のご協力に感謝したい。

（2）議題

① 人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略（最終案）について

事務局：説明（資料1・2）

委員長：それでは、前回会議資料2のとおりを最終案とすることで異議はないか。

（異議なし）

委員長：日本全体としては人口減少にあるなかで、この豊山町というのは、将来性の明るい自治体という見方ができる。最後に、そのあたりもふまえて各委員に改めて忌憚のないご意見などを頂きたい。

A委員：やはり豊山町は名古屋市に近いというのが特性であり、ある意味で交通面もいい。空港もあり、MRJ開発も注目されている。また今後、愛知県が航空ミュージアムの建設を予定している。企業でいう様々な経営資源が揃っているといえる。これらの特徴を活かして大きく繁栄してほしい。

B委員：50年、100年を見据えた行政計画に参加でき光栄に思う。名古屋市に近い上、空港があり、高速交通網から、物流面でも優れている。そういう利便性を活かし、豊山町のみならず、春日井、小牧周辺市町村も巻き込み、豊山町がその中心となって、活力のうねりを起こしてほしいと思う。

C委員：貧困が少子化を助長しているとわれているが、世界での貧困地域を見ると、必ずしもそういうことでもないように思う。個人的な意見であるが、少子化は「風潮」であり、子どもを育てやすい環境があれば、収入が少なくても子どもは増えると思う。小さい頃からの教育の影響が大きいと思う。

それから、企業などが地域に開かれ、もっと若い人たちに航空機産業等の産業に触れる機会をつくる、そういう場づくりを自治体からも進めてほしい。教育現場と一緒にあって、豊山町の企業で働き、地域として収入事情に左右されない子育て環境をつくってほしい。総合戦略の構成で、1番目に「しごと」がくるが、思いとしては子育て環境づくりが、企業としても自治体としても大事である。そのあたりをしっかりとお願いしたい。

D委員：豊山町の50年、100年を考えた時の将来の明るさ、あらゆる視野にたって考えることが必要である。名古屋のベッドタウンとして、外から観光客を呼ぶまちとして、若者、高齢者の住みやすいまちとして、あらゆる視点の取組を進めていければさらに発展すると思う。

E委員：豊山町に来るための交通手段について、名古屋市バスが空港への乗入れのため試験運行するとのことであるが、そういう流れをしっかりと取り込むことが重要だと思う。鉄道も含み、町として県への働きかけなどは、続けていただきたい。町に人が集まってこないことには始まらないだろう。

F委員：豊山町に、住民はもとより多数の人が来てもらえる地域となること、また、豊山町から外へ出る手段も必要であり、今後の発展のために、交通の重要性はしっかりと踏まえて頂きたい。

町にとって農地は縮小か維持すべきなのか、今後の地域活性の視点としても大事である。定年後の社会参加の手段として、「人間は土と戯れるのがいい」という見解もある。自然環境の保全を含めて、その辺も考えていく必要があるだろう。

G委員：大人になってからも愛着が持てる地域であることが大事になる。それには何か地域に光るものが大事だと思う。町の特性として主に空港を前面に出してきた。大企業もあり、特に「MR J」について、小さな子どもにもわかるよう、どう広めていけるか。町からも情報発信して欲しい。子どもが誇りをもてるような要素をとらえる必要があると思う。

H委員：人口が今後減っていくようだが、これを増やすには、交通アクセス向上が必要と考える。また出生率向上のために働きながら子育てできるまちとして豊山町の魅力を考えていきたい。

委員長：各委員の思いを聞かせていただいた。今後、この豊山町が「名古屋に近いまち」ではなく、名古屋市が「豊山町に近いまち」であると言われるようなポジションになってほしいと思う。